



## 急増するVMware製品へのニーズに対応するため 認定トレーニングを活用して技術者の育成を促進 認定資格に裏打ちされた豊富な知識で商談もスムーズに

### 課題

- VMwareソリューションのニーズが急増
- エンジニアの知識・経験不足
- 自社勉強会の教材準備などの負担が増大

### ソリューション

従来のeラーニングや社内勉強会だけでは、十分な知識を効率よく身につけることが困難と考え、「VMware認定トレーニング」を活用。集中的な講義で確実に実践力を付け、高いレベルで標準化された知識を活用できるエンジニアの育成を図った。

### 導入効果

- あらゆるニーズに応えられる技術者を多数育成
- 正しい知識が自信になり、モチベーションの向上
- 教材や勉強会の準備にかかる負担を軽減

### 導入環境

- VMware認定トレーニング

富士ソフトは、組み込み系システムや基幹系システム、業務アプリケーション、クラウドサービスなど、ユーザー企業のニーズに対して幅広くICTソリューションを提供しています。特に昨今では、仮想化環境の普及にともなってVMwareソリューションの販売数が急増し、VMware技術者のさらなる育成が急務となっていました。そこで同社は、VMwareのトレーニング・教育サービスと認定資格制度を活用して技術者の強化を図り、どのようなニーズにも迅速かつ確実に応えられるエンジニアリングチームを形成しています。

### 企業ITの中核になった VMwareソリューション

1970年創立の富士ソフトは、ソフトウェアの開発や販売、アウトソーシングサービスなどを行う独立系システムインテグレーターです。組み込み系システムや基幹系システムなどのバックエンドから、業務アプリケーションやクラウドサービスなどのフロントエンドまで、また業種も金融、製造、医療、文教など幅広くカバーし、企業・組織の活動に必要なITを総合的に提供しています。

同社のビジネスの源は、技術者です。グループ企業を合わせて全国に1万人ものエンジニアを配し、顧客ニーズに合わせたシステムインテグレーションを提供しています。ソリューション事業本部 R&D 部 エグゼクティブフェローの山本祥正氏は、「強力な技術力を保有するからこそ、的確かつ迅速な実装が可能であり、顧客の満足度向上を図ることができるのです」と語ります。

富士ソフトのビジネスでも中核となっているのが、VMwareの製品です。同社がVMwareを取り扱いはじめたのは、決して早い段階ではありませんでしたが、その技術力をもって急速に実績を重ねてきました。現在ではVMware NSXやVMware Virtual SANをはじめ、VMwareのSDDC (Software-Defined Data Center) を実現する先進的なソリューションを積極的にキャッチアップし、ノウハウを蓄積しています。

「VMwareの技術や製品は、“先進すぎる”と言っても過言ではないのですが、これからの企業ITにとって重要な役割を果たすものになるでしょう。だからこそ、技術者集団たる私たちが遅れを取るわけにはいかない、サービスレベ

ルを落とすわけにはいかないと感じています」  
(山本氏)

### VMware案件の急増に対応すべく エンジニアの教育が急務に

富士ソフトのビジネスに変化が訪れたのは、2013年ごろのことでした。仮想化技術の普及にともなって、VMware製品の売上が急速に増え、大型システムや複雑な条件の案件を含めて、1年ごとに倍々に増えていったのです。

ソリューション事業本部 インフラソリューション部 課長の佐藤 浩氏は、「以前から、若いエンジニアにはVMwareのeラーニングや社内勉強会を通じて基礎学習を提供し、積極的に案件に参加させることによって実績を積めるようにしてきましたが、受注の急増でそれが追いつかなくなりました。より広く深い知識を効率よく身につける方法が必要でした」と振り返ります。

当時、山本氏や佐藤氏らのグループには300名ほどのエンジニアが所属していましたが、VMwareソリューションのスペシャリストは30名ほどで、VMwareの認定資格VCP<sup>®1</sup>を取得しているエンジニアはさらに少なく、さらに上位のVCAP<sup>®2</sup>を取得していたのは山本氏のみでした。若いスタッフへの教育を強化しようにも、VMware案件が急増する中では十分な時間



富士ソフト株式会社  
ソリューション事業本部  
エグゼクティブフェロー  
山本 祥正 氏

「VMware 認定トレーニングの受講者は、誰もが高いレベルの知識を身に付けて帰ってきます。説明がわかりやすく、質問しやすく、学びやすい。体系立てられた教育で、確実に技術者を育てることができます」

富士ソフト株式会社  
山本 祥正 氏



富士ソフト株式会社  
ソリューション事業本部  
課長  
佐藤 浩 氏

### カスタマープロフィール

1970年に独立系ソフトウェア開発事業者として創業。組み込み系ソフトウェアや業務システムの開発・販売、クラウドインテグレーション、コンサルティングなどを幅広く展開するシステムインテグレーター。確固たる技術力こそが顧客満足度の向上につながるとして、グループ全体で1万人のエンジニアを抱える“技術者集団”でもある。

を割くことができず、少数のスペシャリストにかかる負担が増していきました。

そこで富士ソフトでは、VMwareが主催するVCP/VCAPのトレーニングコースを最大限に活用することにしたのです。

※1: VCP (VMware Certified Professional)  
VMwareソリューションをビジネスケースに沿って適切に導入するために必要となる、基礎的な技術知識を認定する資格

※2: VCAP (VMware Certified Advanced Professional)  
VMwareソリューションの導入・展開のための技術を有することを認定する資格

### 体系的な学習を可能にする 豊富な教材と的確なトレーニング

VMwareのテクノロジーは多岐にわたるため、認定トレーニングコースもさまざまなものが用意されています。富士ソフトでは、特に需要の高いVMware Horizon Viewと業界的にエンジニアがまだ少ないVMware NSXに着目し、ICM (Install, Configure, Manage) コースを活用しました。ハンズオンを中心とした4~5日の集中的なトレーニングで、実践的な力を付けることができるためです。

「VMware 認定トレーニングは、綿密に体系立てられているため、学習の範囲やレベルがはっきりしており、効果が見えやすいというメリットがあります。例えばプリセールス・エンジニアは、正しい知識を身に付けたことが自信になって受け答えがしっかりし、商談をスムーズに進められるようになりました」(佐藤氏)

現在の仮想化技術は、サーバからストレージ、ネットワーク、エンドポイントへと範囲が広がっているため、どこからどこまで学べばよいのかわかりにくいのが難点です。VMware 認定トレーニングであれば効率的に網羅でき、新しい技術やソリューションもいち早く学ぶことができます。コースも頻繁に開催されているため、各企業の教育スケジュールに合わせて受講できることも大きなメリットです。

### VMware 認定技術者の拡充で 顧客満足度の高いサービスの提供へ

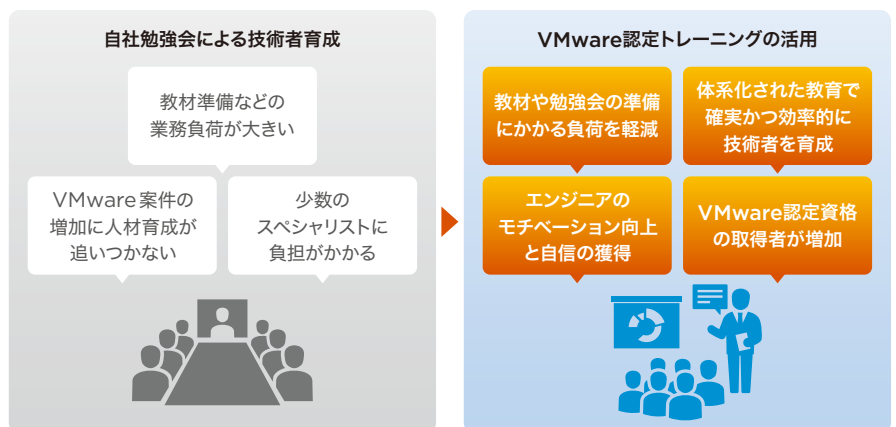
富士ソフトでは、VMware 認定資格の受験にも積極的に取り組み、着実に認定エンジニアを増やしています。現在、VMwareソリューションを取り扱えるスタッフは150名ほどに増え、そのうち40名ほどがVCPを取得しています。上位のVCAP/VCIX※3を取得したエンジニアも、山本氏を含めて6名を数えます。

近い将来には、VMwareテクノロジーを牽引できるVCAP以上のエンジニアを50名、プロジェクトリーダーとなれるVCP保有者を200名まで育てることを目指しているそうです。「トレーニングの受講や資格の取得は、エンジニアにとって大きなモチベーション向上と自信の獲得になります。ひいては確実なサービスの提供、顧客満足度の向上にもつながるのです」と、山本氏は述べています。

「従来のシステムは、サーバ、ストレージ、ネットワークなどの技術が分離しており、それぞれにスペシャリストがいました。しかし、クラウドやIoTなどの新しい技術やサービスが登場している現在では、サーバからネットワークまで、すべての知識がないと太刀打ちできません。VMwareの技術も急速に進化していくことでしょう。新入社員向けから、現場のベテランエンジニア向けまで、幅広い教育コンテンツを提供してくれることを期待しています」(山本氏)

ハイレベルな“技術者集団”として企業・組織のIT化を推進してきた富士ソフトは、仮想化分野においても顧客満足度の高いサービスを提供し続けています。VMwareは、先進的な技術や製品はもちろん、体系化されたトレーニングや教材を豊富に提供することにより、富士ソフトのさらなる進化を支えています。

※3: VCAP/VCIX  
VCPの上位資格として設けられた資格。VCAPには運用管理者向けの「VCAP-DCA (Data Center Administration)」と、設計者向けの「VCAP-DCD (Data Center Design)」の2種類があり、この2科目合格するとVCIX (VMware Certified Implementation Expert) を得られる



図：VMware 認定トレーニングの導入効果

